

令和7年度 全国学力・学習状況調査結果資料

○教科に関する調査の結果と分析

〔国 語〕

全国の平均正答率と比較して、±3ポイント以内の差であるものは「ほぼ同程度だがやや上回っている」「ほぼ同程度だがやや下回っている」、±3ポイント以上の差がある場合は「上回っている」「下回っている」としています。

本校の概要

【領域】

□【知識及び技能】

「言葉の特徴や使い方に関する事項」

◇全国平均を下回っている。

「情報の扱い方に関する事項」

◇全国平均を下回っている。

「我が国の言語文化に関する事項」

◇全国平均を下回っている。

□【思考力・判断力・表現力等】

「話すこと・聞くこと」

◇全国平均を下回っている。

「書くこと」

◇全国平均を下回っている。

「読むこと」

◇全国平均を下回っている。

今回の調査における課題

- 学年別漢字配当表に示されている漢字を、文中で正しく使うこと。
- 自分が聞こうとする意図に応じて、話の内容を捉えること。
- 目的や意図に応じて、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫すること。
- 文章全体の構成を捉えて要旨を把握すること。
- 目的に応じて、必要な情報を見付けること。

改善の方向

- ☆文を書く際に漢字を適切に使用するような指導の充実。
- ☆意見や提案など、自分の考えを話したり、聞いたりする活動を充実させる。
- ☆読み手のことを意識し、図表を用いたり、目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりする活動を充実させる。
- ☆事実と感想、意見などとの関係を叙述を基に読み取るための手立てを身に付ける活動を充実させる。
- ☆文章と図表などを結び付けるなどして、分かったことや考えたことを話し合ったり、伝え合ったりする活動を充実させる。

〔算 数〕

本校の概要

【領域】

「数と計算」

◇全国平均を下回っている。

「図形」

◇全国平均を下回っている。

「測定」

◇全国平均を下回っている。

「変化と関係」

◇全国平均を下回っている。

「データの活用」

◇全国平均を下回っている。

今回の調査における課題

- 小数の加法について、数の相対的な大きさを用いて共通する単位を捉えること。
- 数直線上で、分数を単位分数の幾つ分として捉えること。
- 異分母の分数の加法の計算をすること。
- 角の大きさや図形の性質を理解し、作図すること。
- 図形の面積の求め方を、式や言葉を用いて記述すること。
- はかりの目盛りを正確に読むこと。
- 伴って変わる二つの数量の関係に着目し、知りたい数量の求め方を式や言葉を用いて記述すること。

改善の方向

- ☆整数の加法を使って考える仕組みを理解し、解き方を確実に習得していく活動を充実させる。
- ☆基準量（1とみる数）に着目し、単位分数の幾つ分を見出す活動の充実。また、通分など分数の基本的な計算の仕方を理解し、解き方を確実に習得していく活動を充実させる。
- ☆算数的活動と、式や図、言葉に関連付けながら面積の求め方を考えるなど、図形についての知識や理解を深める活動を充実させる。
- ☆図形の性質や作図の仕方を理解したり、長さや重さ、量などを正確に測定したりできるような活動を充実させる。
- ☆二つの数量を表・式・言葉を用いて表現し、その関係を把握して問題を解決する活動を充実させる。

〔理 科〕

本校の概要

【領域】

「エネルギー」を柱とする領域
◇全国平均を下回っている。

「粒子」を柱とする領域
◇全国平均を下回っている。

「生命」を柱とする領域
◇全国平均を下回っている。

「地球」を柱とする領域
◇全国平均を下回っている。

今回の調査における課題

●乾電池のつなぎ方や巻数によって電磁石の強さが変わることについて理解すること。

●温度によって水の状態が変化することを基に、水の蒸発や結露について理解すること。

●ヘチマの花のつくりや受粉について理解すること。

●赤玉土の粒の大きさによる水のしみ込み方の違いについて結果やまとめを基に、結論を導いた理由や、他の条件での結果の予想を表現すること。

改善の方向

☆電気の性質や電気の実験について類似の問題に取り組み、理解を深める活動を充実させる。

☆実験を通して、温度によって水の状態が変化することを理解し、その結果を自分の言葉で表現する活動の充実。

☆実験や結果、結論などをノートに整理し、植物の花のつくりや受粉に関する知識を確実に理解するための活動を充実させる。

☆結論を見い出す過程において、結果と考察を区別して自分の考えをつくり出し、表現する活動を充実させる。

〇6年生質問紙調査より(抜粋)

【全国平均を上回っている】

- ☐ 「人が困っているときは、進んで助けている」と答えた子どもの割合
- ☐ 「いじめは、どんな理由があってもいけないこと」だと思っている子どもの割合
- ☐ 「困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できる」と答えた子どもの割合
- ☐ 「人の役に立つ人間になりたい」と答えた子どもの割合
- ☐ 「ICT 機器で文章を作成することができる」と答えた子どもの割合
- ☐ 「インターネットを使って情報を収集することができる」と答えた子どもの割合

【全国平均を下回っている】

- 「朝食を毎日食べている」と答えた子どもの割合
- 「毎日、同じくらいの時刻に寝ている」と答えた子どもの割合
- 「将来の夢や目標をもっている」と答えた子どもの割合
- 「自分と違う意見について考えるのが楽しいと思う」と答えた子どもの割合
- 「学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動を行っていた」と答えた子どもの割合
- 「学んだことを、学習や実生活に結び付けて考えたり生かしたりすることができる」と答えた子どもの割合

今回の調査結果から、本校の児童が、ICT 機器を効果的に活用しながら学習に取り組んでいることが分かりました。また、思いやりをもって、人のために行動する児童が多いということも分かりました。

一方で、生活リズムが一定ではなかったり、意見を交流し合って学びを深め、自分の考えをまとめていく活動に難しさを感じたりしている児童がいることも分かりました。

このようなことを踏まえ、今後は次のような取組をしていきたいと考えております。

- ①自分の意見と違う意見を比較し、視点を広げ、学びを深めることが実感できるような話し合い活動を増やしていく。
- ②自分の考えを表現する方法を具体的に示し、分かりやすくまとめていけるような教師の関わりを意識していく。
- ③将来の夢や目標をもたせるために、キャリア教育に力を入れたり、地域の方々や様々な職種の方々に触れることができるように、出前授業や校外学習などの体験学習を計画したりしていく。

本校としては、この調査結果を基に、学校と家庭、地域が手を携えて子どもたちを育ていけるよう、教育活動の改善に努めていきます。

(担当:教務主任 杉原 正樹 学校電話 761-2521)